

2E02

アメリカのハイスクール科目「生理学」の歴史の変遷過程

○日高 翼^{1,2}・丹沢哲郎³

(¹静岡大学大学院教育学研究科, ²大阪府立西寝屋川高等学校, ³静岡大学教育学部)

I. 目的

アメリカにおける「生物学」の成立過程を解明することを最終的なねらいとし、その前駆的科目の一つとして「生理学」に着目し、その変遷過程を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

前述の目的を達成するため、次の手順によって分析を行った。

1. 学校制度や「生理学」の設置率・履修率等を各種の調査報告の中から抽出し、当時のハイスクールにおける「生理学」の提供状況を明らかにする。
2. 各時代の代表的な「生理学」教科書の構成や学習内容を分析し、それらの性格を明らかにする。
3. 上記結果を総合的に検討し、カリキュラムへの「生理学」の導入から衰退に至るプロセスを、当時の社会・科学・教育の状況や思想との関わりの中で、その諸要因を解釈する。

III. 結果・考察

科目としての「生理学」はねらい、学習内容、学習方法等の特徴により、3つの時代に区分できた。19世紀を通して、教科書で扱われる対象が動物界全体からヒトのみへ、システム概念の拡充、タバコやアルコールの害に関する扱いの量的増減、宗教的・道徳的側面の衰退等が確認された。また、これらの変化は、人々の劣悪な生活環境、temperance思想の大衆化、生理学の学問的成熟、教科目の統合、大学教員らの働きかけ、教育行政の影響等の要因によって解釈された。今後の課題として、19世紀末から20世紀初頭に生物学関連の各種科目が「生物学」へと収斂する過程を明らかにすることの必要性があげられた。